

76 (明治15年) 10月18日 菊池長閑

第十三号十月十八日

お多代治療も心配致呉候処先以宜敷方之趣□々不涉大慶罷在候
大病院エも遣手続之由彼是配慮准之失費も懸り可申其上衣服も
拵呉候趣是又厚御礼申入候右等之入費もあれハ早速資送可致処
先般申入候金升や之不都合ニ而手配行届不申漸々古米相払候間
先三拾円差遣候右之内拾円ハお多代申聞次第相渡可申外ハ衣服
其外何か遣方ニ向候此事ハ此間お多代エも粗申遣候今少し余計
と存候得共金升や之方安心之見請付不申内ハ上納時節ゆへ差繰
かたく乍存先右之通ニ候不悪察呉候様存候お多代世話ニ相成候
義おろちエも宜御礼頼入候以上

十月十八日

長閑

武夫殿

(封筒表)

「東京京橋区加賀町十八番

菊池 武 夫 殿

金三拾円在中

(封筒裏)

「岩手県盛岡加賀野

菊池長閑